

あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者

今日はイエス様が洗礼者ヨハネから洗礼をお受けになったことを記念する日です。

当時、洗礼者ヨハネが荒野に現れて、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝え（マルコ3:4）、ヨルダン川で洗礼を受けました。すると、多くの人々が洗礼者ヨハネのところに訪ねてきて洗礼を受けました。そしてイエス様も洗礼者ヨハネを訪ね、洗礼をお受けになりました。

イエス様は罪のないものとしてお生まれになり、悔い改めをするほどの過ちを犯したこともない方です。そして、洗礼者ヨハネもイエス様が来られて洗礼を受けようとする、「わたしこそ、あなたから洗礼を受けるべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか」（マタイ3:14）と言い、思いとどまらせようとしてしました。それにもかかわらず、なぜイエス様は洗礼をお受けになったのでしょうか。それは、常に悔い改める心を持って生きなければならないということを教えてくださいのためです。また、それは神様のみ旨に従うことでもありました。それでイエス様は「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」（マタイ3:15）とおっしゃいました。私たち信仰者たちはイエス様のこのような意思に従って、悔い改めの人生を生きていくために努力し、聖餐式に参加するたびに一緒に懺悔をします。私たちはこのような悔い改めを通して新たに生まれ変わり、新しい人生を生きていくことができます。

使徒ペトロはこの悔い改めの大切さを教えるため、神様は「どんな国の人でも、神を畏れて、正しいことを行う人は、神に受け入れられる」（使徒10:36）ということをご一緒に読んだ使徒言行録を通して宣べ伝えました。使徒パウロが宣べ伝えたこの「神を畏れて、正しいことを行うもの」が悔い改めた人の様子でしょう。このような人々は神様に認められ、受け入れられます。

ところで、私たちはイエス様の洗礼を通して、新たに知るべきこともあります。それは、洗礼は信仰者になるための入門儀式ではありますが、それを超える特別な意味もあるということです。つまり、「洗礼を通して私たちは神様の救いへの歴史に参加することになる」ということです。私たちは、それを教会で行っている洗礼式を通して分かります。今日は洗礼式を行う時、洗礼志願者の頭に水を注ぐ方法で行われますが、初代の教会の時代は洗礼志願者が川の水に体を沈めました。このように川で洗礼式を行ったのは、出エジプトの出来事を思い出すためであるからです。つまり、洗礼は出エジプトのような救いの出来事が再び起こ

って、私たちがその神様の救いの歴史に参加することを願う出来事であるのです。

ところで、この出エジプトの出来事についてもっと考えるべきこともあります。それは、出エジプトの出来事が当時世界最高の文明国家であるエジプトの物質中心主義の生活から脱して、神様を自分の人生の主として仕えながら生き、神様に礼拝を捧げる人生を生きるための信仰的な出来事であるということです。私たちは、それをモーセが召命を受ける時の神様のみ言葉を通して分かります。神様はモーセにこのようにおっしゃいました。

「あなたが民をエジプトから導き出したとき、あなたたちはこの山で神に仕える。」(出 3:12)

神様がアブラハムをカナンの地にお導きになったこともエジプト脱出の出来事と同じ信仰的な出来事でした。アブラハムが住んでいたハランというところはメソポタミアの上流の栄えた都市でした。けれども、神様はアブラハムをその物質中心主義の人生から抜け出し、神の民として生きる人生へ導いてくださるためにアブラハムに「カナンの地にいきなさい」とおっしゃったのです。神様はカナンの地を「乳と蜂蜜が流れる土地」とおっしゃいました。ところで本当にカナンの地は「乳と蜂蜜が流れる土地」だったのでしょうか。そうではありません。カナンの地はメソポタミアとエジプトのナイル川のデルタの肥えた土地と比べると非常に荒れた土地でした。その上、異邦人が住んでいて定着に苦労しなければならないところでした。それにもかかわらず、神様がそのような土地を「乳と蜂蜜が流れる土地」とおっしゃったのは「信仰的に恵みの人生が送れるところである」ということを教えてくださるためでした。アブラハムもそれを分かっていました。もしアブラハムがカナンの地に対して物質的な豊かさを期待していたら、がっかりしてまたハランに帰って行ったはずでしょう。けれどもアブラハムは、「カナンの地で神様と共に暮らすことができるから、カナンの地は乳と蜂蜜が流れる土地である」と信じていました。それでアブラハムはカナンの地に到着するとすぐに祭壇を築き、神様に礼拝をささげました。

なので、洗礼を受けて信仰者になるということは、このような神様の救いへの歴史に参加することになります。そして物質的な豊かさとか、この世の人々が思っている祝福を超えて、神様と共にする人生を生きることであります。イエス様が洗礼者ヨハネより洗礼をお受けになったのは、このような真実を伝えるためでもあります。そして私たちが注目すべきことは、その時天から聞こえた声についてです。その時、天からこのような声が聞こえました。

「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」(マルコ 1:11)

このみ言葉は、神様のみ旨に従う公生涯を始めるイエス様を祝福なさるものでありました。けれども、このみ言葉は私たち皆のためのものでもあります。それは、洗礼を受けて信仰生活をしている私たちに、「洗礼を受けて神様のみ旨に従う人生を生きれば、私たちも神様の愛する子となり、神様のみ心に適う者になることができる」ということを教えてくれるから

です。

今日ご一緒に読んだイザヤ書には、このような神様の愛と救いへの恵みを私たちに教えてくれるみ言葉がこのように記されています。

「神は天を創造して、これを広げ／地とそこに生ずるものを繰り広げ／その上に住む人々に息を与え／そこを歩く者に霊を与えられる。」(イザヤ 42:5)

このみ言葉を通して、神様が私たちを愛し、救いへ導いてくださるための計画は天地創造の時から備えられていたということが分かります。私たちが「神様の息と霊」を通して生まれ、息をしながら生きているからです。そして今日ご一緒に読んだイザヤ書を通して、神様はいつも私たちを見守り、私たちが危ない時には必ず守ってくださるという事実もよく分かります。今日ご一緒に読んだイザヤ書には、神様の温かいみ心がこのように記されています。

「傷ついた葦を折ることなく／暗くなってゆく灯心を消すことなく」(イザヤ 42:3)

そして、私たちに勇気を与えてくださるためにこのようにもおっしゃいました。

「主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び／あなたの手を取った。民の契約、諸国の光として／あなたを形づくり、あなたを立てた。」(イザヤ 42:6)

ですから、私たちは神様に向かって手を差し出したら良いのです。そうすれば、神様は私たちの手をお取りになり、私たちがこの世の困難を乗り越えていけるように力と勇気を与えてくださるでしょう。

最近のコロナの感染拡大によって生活の不便さはもちろんのこと、不安はますます大きくなり、困難にある人々の苦しみも日々ますます大きくなっています。WHO の専門家たちは、コロナ・パンデミックの期間は私たちの予想より長くなりうりこともあり、想像できる状況よりさらに悪化するとも言います。それゆえ、これからも感染予防の指針をさらに忠実に守っていきましょう。そして私たちは信仰者なので、信仰的なこともさらに深く考えていきましょう。信仰者にとってコロナの自粛生活の期間は、エジプトからの脱出とバビロンからの帰還を待っていた神様の時間であるかもしれません。その時、神様は誰も想像できなかったエジプトからの脱出とバビロンの捕虜生活からの帰還という救いの出来事を行われました。ですから、その時神様がエジプトの奴隷生活とバビロンの捕虜生活から救い出してくださったように、今日の私たちもこのコロナの状況から救い出し、さらに良い人生へ導いてくださり、さらに恵みあふれる教会の信仰生活に導いてくださるでしょう。なので、神様の真実を信じ、私たちが洗礼を受けた時の信仰の告白を思い出し、「神様はいつも私たちと共におられる」という信仰をもって、この困難と試練を乗り越えていくようお願い申し上げます。神様はいつもご自分の民らを良き道へ導いてくださいます。

あらためて、この一週、洗礼の時の約束をいつも思い出し、神様はいつも私たちと共におられるという信仰を通してこの試練を乗り越え、ついに神様とともに勝利を得られますよう

に心よりお祈りいたします。